

ABU JAZZ FESTIVAL 2023

阿武町ジャズフェスティバル 2023



© Kazuyoshi Shimomura (AGENCE HIRATA)

小曾根真

Solo
&
Duo

© 堀田力丸



スペシャルゲスト小曾根啓

阿武町町民センター文化ホール

10/21 (土)

開演 ▶ 18:30 開場 ▶ 17:30

料金 ▶ ¥6,000 (全席指定 500席)

主催 ▶ Abu 100 Dreams 後援 ▶ 阿武町 / 阿武町教育委員会

協力 ▶ village 企画制作 ▶ Abu 100 Dreams

ピアノ調律: (有) 山口ピアノ調律センター 音響・照明: サウンドプロデュース

チケットの取り扱い
/ お問い合わせ

阿武町町民センター
08388-2-2044

village
0838-25-6596
village@mac.com

ABU JAZZ FESTIVAL 2023

阿武町ジャズフェスティバル 2023

小曽根真 Solo&Duo

スペシャルゲスト小曽根啓

biography

小曽根真 (ピアノ)

Makoto Ozone (p)

1983年バークリー音楽大学のジャズ作・編曲科を首席で卒業。同年米CBSと日本人初のレコード専属契約を結び、アルバム「OZONE」で全世界デビュー。以来、ソロ・ライブをはじめゲイリー・バートン、ブランフォード・マルサリス、パキート・デリベラなど世界的なトッププレイヤーとの共演や、自身のビッグ・バンド「No Name Horses」を率いてのツアーなど、ジャズの最前線で活躍。2003年グラミー賞ノミネート。

クラシックにも本格的に取り組み、ニューヨークフィル、サンフランシスコ響、NDRエルプフィルハーモニー等、国内外の主要オーケストラと、バーンスタイン、モーツァルト、ラフマニノフ、プロコフィエフなどの協奏曲で共演を重ね高い評価を得ている。2010年、ショパン生誕200年を記念したアルバム「ロード・トゥ・ショパン」を発表し同名の全国ツアーを成功させ、ポーランド政府より「ショパン・パスポート」を授与される。

2016年には、チック・コリアとの日本で初の全国デュオ・ツアーを成功させ、17年にはゲイリー・バートンの引退記念となる日本ツアーを催行。2019年、小曽根真 featuring No Name Horses 15周年記念アルバム、「Until We Vanish」をリリースし、ロックを取り入れた新しいアプローチが注目を集めた。2022/23シーズンには初のベスト盤「THE BEST」にて全国ツアーを催行。

2021年には還暦を迎え、「OZONE 60」企画を全国47都道府県で催行し成功を収めた。現在、「From OZONE till Dawn」と題した若手音楽家のプロジェクトにも取り組み、後進の育成にも努めている。平成30年度紫綬褒章受章。

小曽根啓 (アルトサックス, ソプラノサックス)

Hiroshi Ozone(as,ss)

1964年、神戸生まれ。高校時代よりサックスを始める。

1982年ボストンのバークリー音楽大学に留学し、ジミー・モーシャーズに師事。

1985年の卒業後に帰国し、オゾネミュージックスクールにてサックス/クラリネット/フルート講師として数名海外に送り出している。

1993・94年、兄・小曽根真率いるニューポート・ジャズ・オーケストラの大阪/福岡ブルーノート・ツアーに参加。

2012・13年、小曽根真 TRIO & QUARTET でブランフォード・マルサリス、クリスチャン・マクブライド、ジェフ“ティン”ワッツと共演。

2013年、KOBE JAZZ FESTIVAL で北村英治等と共演し、以降毎年出演。

2023年1月、小曽根真をフィーチャリングした自身初のリーダー・アルバム『Unison』を発表。

関西ジャズシーンを代表する実力派サックス奏者の初ソロ・アルバム
小曽根真プロデュース

小曽根啓「Unison feat. 小曽根真」

好評発売中！

UCCJ-2219 ¥3,300(tax in) Universal Music

●関西ジャズ・シーンの発展に多大な貢献を果たしたピアニスト/オルガン奏者の小曽根真の次男として生まれ、兄・小曽根真とともにジャズ一家で育ったサックス奏者の小曽根啓。

●1985年のバークリー音楽大学卒業後は、地元・神戸にて後進の育成をメインに活動してきましたが、このたび初のソロ・アルバムを制作。

●かねてからそのサックス及び作曲の才能を認め、長年にわたりアルバム制作を進言していたという小曽根真がプロデュースを務め、演奏にも全面参加。そして、小曽根真率いるビッグ・バンド、NoName Horsesの鉄壁のリズム・セクションである中村健吾と高橋信之介がバックを固めています。

●アルバムは、小曽根啓のオリジナル5曲、スタンダード3曲、そして20代の頃に兄・真から教えてもらった思い出の曲だというミッチェル・フォアマン「ゴージャス」の全9曲で構成。オリジナル曲は、いずれもメロディアスで耳心地がよく、心に迫ってくるナンバーばかり。風通しのよいストレートなサウンドと、メンバーどうしのインタープレイが堪能できる、ジャズ本来の醍醐味を感じさせる作品です。

●アルバム・ジャケットには、小曽根兄弟の幼少期の写真があしらわれています。

